

外 国 語

英 語（リーディング）

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

・大学入学共通テストの概要

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は、大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としており、平成2年より実施された「大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）」に代わって、令和3年より実施された。

今年度の受験者数（共通テスト(1)）は、476,174人で、前年度のセンター試験より、42,227人減少している。

今年度の本試験の平均点（共通テスト(1)）は58.80点で、昨年度の平均点58.15点（100点換算）とほぼ変わっていない。

・科目の特徴

センター試験の「英語（筆記）」と異なり、高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）にあるように、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としている。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は出題されていない。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況となっている。問題文についても、英語で表記されている。配点も200点から100点へと変更された。

・評価の視点

ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、CEFRレベルにふさわしいテキストと設問が設定されており、A1からB1レベルに相当する問題となっている。

センター試験の問題に比べて、単語数が1000語以上増加している一方、英文自体の難易度は、昨年度と同等と思われる。受験者は、時には複数の表等から、情報を読み取る力が要求されている。また、学習指導要領に、「情報や考えなどを理解」という項目があるが、factとopinionを識別する問いも複数ある。グラフや表は多すぎず、適切な量であると思われる。

文書の形式や場面、分野は様々で、メモを作る、スライドを作成する等、授業で行った活動も生きてくるようになっている。

2 内 容・範 囲

第1問A 大学寮のルームメイトとのスマートフォンでのやりとりを扱った問題である。日常的なコミュニケーションを題材にしており、コンセプトとしては良い。問2で会話の流れを理解できているかを問うている点も良い。ただ、メールの各メッセージが少し長く、それを短くしても一往復程度メール内容を増やしても良いのではないだろうか。

第1問B 外国の歌手のファンクラブに入会するために、ウェブサイトを読む問題である。これも日常的に起こりうる状況を扱っていて、良問である。必要な情報を読み取る力と判断力が問

われている。

第2問A バンドコンテストでの3人のジャッジのそれぞれのコメントを読んで答える問題。情報を正確に判断し、factとopinionを見極める力が問われる。状況設定は工夫されている。今後はfactとopinionを意識させることも念頭に置いた授業展開が今以上に求められる。

第2問B 学校の方針に異議を唱える生徒会長とそれに対応する校長とのそれぞれのメールを読んで双方の意見のポイントと事実を把握する問題。相手の意見の弱点を見つけ、論理的に議論する力が問われる。問5のように、自分の考えをただ述べる事はできるが、相手の矛盾点に気づき、異論を唱えることが苦手な生徒が多いのではないかと。Debateの要素をいかに効果的に授業に取り入れるかが課題である。

第3問A イギリス旅行での空港からホテルへの移動手段について、ネット上での質問とその回答を図表も参考にしながら内容を把握する問題。図表自体はシンプルだが、英文をしっかりと理解しないと間違えてしまう。日程、時間、状況など、様々なポイントに気を配りながら正確な情報を読み取る力が必要。

第3問B 留学生が、地域の国際センター存続のために募金活動のボランティアを募る題材である。起こった出来事の順番と内容把握の問題である。ただ英文を読むのではなく、頭の中で時系列を整理しながら英文を読み進める力が必要。

第4問 姉妹校の生徒が来日した時の計画に関して両校の生徒のメールのやりとり。添付された図表も参考にしながら情報を確認し、そこから一番適切なプログラムを導き出す問題。水族館の資料は時間帯を絞る等、簡素化したもので十分であったと思われる。さらに、問1では、この選択肢だと答えを選びやすいため、それぞれ別に4択にしてはどうだろうか。日々の授業において、国際交流を疑似体験できるような活動を行うことも必要になるとと思われる。

第5問 Astonという牛とその飼い主の話を理解し、それをプレゼンテーションするためのスライドを作る問題。この話がノンフィクションであることと、プレゼンテーションの設定であることが斬新で良い。問4は選択肢を組合せにして提示しても良いだろう。学校の授業でのプレゼンテーション導入のひとつのきっかけになることが期待される。

第6問A アイスホッケーの安全性についての英文を読み、ポスターを作ってクラス内で発表する設定。文の内容を把握するのみならず、相手に分かりやすいポスターを作成しなければならないので、内容を論理的に理解、表現する力が問われる。サッカーやバスケットと違って「アイスホッケー」という、生徒には普段なじみのないスポーツを題材にしたのは公平性を保つという点でも良かった。

第6問B 人工甘味料に関する英文を読み、内容把握と、筆者の考えを読み取る問題。普段から身の回りの様々なことに興味を持ち、あるいは家庭科等の授業での経験を生かした生徒にはなじみのあるテーマであったと思われるが、そうではない生徒にとっては少し難しかったかもしれない。また、sucraloseやaspartameなどの見慣れないスペルによって解答が難しかった可能性もある。普段の生活の中でのあらゆる情報、そして他教科での学習との関連を印象付けた問題である。

3 分量・程度

第1問A 約150語で2つの設問。必要な情報を読み取る力を問うのに適切な分量。実生活のSNSでのやりとりに比べると、テキストメッセージとしては長いですが、問題として適当。日常生活に関連した基本的な問題であり難易度も適切。

第1問B 約270語で3つの設問。資料とその説明文から必要な情報を探し出す力を問うのに適

切な分量。ファンクラブのウェブサイトと関連した資料の情報量として適切。数値の情報はあるが計算の必要はなく易しい。

第2問A 約250語で5つの設問。資料から必要な情報を素早く読み取る力を問うのに適切な分量。情報の種類が複数でやや多いが、各文章が短く簡潔であり適切。設問により難易度は若干異なるが、全体では標準的な難易度。

第2問B 約300語で5つの設問。資料から必要な情報を読み取る力を問うのに適切な分量。情報はやや多いが、資料の設定は、シンプルなネットの掲示板2種類であるため適切。問5は内容の中での今後の方向性を問う問題で、読み取った内容を基に推測することが困難だった生徒が多くいると思われる。おおむね標準的な難易度。

第3問A 約270語で2つの設問。比較的語数が多いが、英文、図ともに平坦で理解しやすい。問2は、案内図の情報からすぐに解答が導き出せそうに見える。しかし実際は本文中の詳細な情報を基に時間の計算をする必要があり、総合的な情報を理解する必要があるため、難易度の高い問題となった。

第3問B 約320語で3つの設問。記事を読み概要を把握する力を問うのに適切な分量。イラスト等の資料はないが、校内新聞の設定でイメージしやすく適切。問1は出来事を時系列に並べる問題で、選択肢が本文のどこをまとめたものかの判断が難しかった。全体としては標準的な難易度。

第4問 約570語で5つの設問。メールと図表の情報量が多く設問の英文も注意して読む必要があるため、第4問で時間がかかる受験者が多くいた可能性あり。メール文は長文だが、主張内容は明確。目的を達成するための資料が続き、設問に対しての本文資料として適切な量。複数の情報を読み取る必要があり、情報を整理し解答する問題では難易度は標準的。問5の説明文の情報から判断し、新たな候補案を考える力を問う問題で難易度は高かった。

第5問 最も多い語数約690語で5つの設問。いかに情報を適切に読み取るかを問うのに分量は必要且つ適切。既習の一般的な語彙が使用されており難易度は標準的。文章の構造と言い回しは、ニュースレポートとして時系列且つ叙述的であり難解ではない。各設問では、時系列を読み取る問3で難易度は高かった。正確に全体の流れをつかみ解答する問題で受験者の理解度合いが分かれ、適切に力を測ることができる。

第6問A 約650語で4つの設問。7つの段落のどこに何が書かれているかを把握し、ポスターに当てはめる問題。どの情報が適切かを答える問題では、要約の力を測るのにこの分量は必要。なじみのない単語も出てくるが、前後から推測することができ難易度はそれほど高くない。問3は、6段落の内容を要約する問題で、選択肢に本文では使われてない言葉で表されるため難易度がやや高かった。しかし、要約力を適切に測る問題として適当。

第6問B 約550語で4つの設問。なじみのない名称が複数出てくるが、戸惑わずに正確に設問に答える力が求められる。長すぎることもなく、最後の設問として適切な分量。見慣れない甘味料の名称が特に3段落目と4段落目に並ぶ。特徴の情報を正確に得て解答することが求められる。設問では、正答ではない選択肢にも理解を測る工夫があり、妥当且つ適切。

4 表現・形式

第1問A スマートフォンでのSNS利用という受験者の日常生活に近い場面設定であり、英文も平坦で理解しやすい問題。基本的な読解力を問う問題であり、且つ、相手にどう返答するかというコミュニケーションにつながる力を問う問題も含まれている。

第1問B ミュージシャンのファンクラブの案内ウェブサイトを見て入会の手続きや会員特典に

関する情報を読み取るという受験者にとって身近な場面設定。表と説明文という2種類の材料から情報を読み取らせる問題。数値や宣伝表現等も含まれるが計算の必要はなく、表現も平坦で、情報が取りやすい設定。

第2問A 審査員のコメントと総合評価を読み、事実と意見を区別させたり、最終的な順位を考えさせる問題。場面設定として学校生活に身近なものになっている。イギリス英語の使用がある。文章は平坦である。

第2問B 受験者にとって身近である生徒会関連の話題の設定。2つの意見をネットの掲示板で読み、概要を把握する力を問う問題。イギリス英語の使用がある。ネットでのメールのやりとりは受験者にとって慣れ親しみのある形式。

第3問A 旅行関連サイトのQ&A欄を読んで、内容の概要、必要な情報の詳細を捉える問題。本文を照らし合わせることなく、案内図のみで判断し解答した受験者がある程度いたと思われる。実際に、特に詳細の説明が必要となる場合、適切な配慮をとることも考えられる。例えば、図表の中に※等を加え、詳細は別に記述がある旨示す等が考えられる。

第3問B 日本への留学生が、異文化交流センター改築への寄付依頼を校内新聞に掲載するという内容の読み取りを通じて、概要を問う問題。今後のとるべき対応を問う問題。課題を共有して解決するという場面設定は、留学生関連の話題において異文化交流にとどまらない人と人とのつながりを示す適切な場面設定。また、イギリス英語特有の単語のスペリングが含まれている。

第4問 スケジュール案の作成に関してのメールを2つ使用、一方には図表を添えている。資料を作成する必要もあり、読み取った情報を整理して、それに基づいて考える問題。メール本文とグラフ、資料、メモ等が多岐にわたり使用され様々な形態の資料を活用する力を測るのに適している。

第5問 学校では情報を得た後に、スライドを作りプレゼンテーションをする機会はある。読んだ内容をスライドにまとめるという設定は適切。ただ、スライドに実際のプレゼンテーションでは入る可能性の低いもの(2枚目のスライド)があり、やや無理がある。より現実に即した想定が必要。設問形式、配点ともに適切。設問形式は叙述的展開の把握を問うもので、時系列での読解力を測ることができる。特に、心情を問う問題等は出題されていない。設定と内容に現実味があり、言語材料について難解なものはない。配置は適切である。

第6問A スポーツと医学的な内容、スポーツの試合の運営や規則を読み取り、ポスターに要点をまとめる設定。一部教科横断型学習の過程を意識した場面設定で評価できる。内容の要約をする力を測る設問形式。直接設問の答えになる言葉が本文にない場合でも、段落の概要を読み取ることができれば解答可能。よって形式、配点ともに適切。文章表現も難解な箇所は見当たらない。若干なじみがない用語があるが、前後の内容から推測して全体を理解することが可能。言語材料も適切であると評価する。ポスター作成に必要な基本的なポイントが提示されており、今後の学校での学習指導の参考になる。

第6問B 家庭科等との教科横断型の指導のきっかけにもなる内容で適切な場面設定であると評価する。専門的な見慣れない語彙にもためらわずに読み進め情報を得るという力を試す問題として適当。また、問題の分量、設問形式と配点ともに適切。設問の中の選択肢は正確な理解を測る工夫があり、適切に能力を測る問題だった。科学的なテーマを取り扱っている内容である。多少未知の固有名称が出てくるが、難解な文章表現はない上、特徴を読み取り解答する設問であり適切。図は一つで、示し方、選択肢の配置等含め、様々な特徴を持つ甘味料の種類を整理し理解する助けになるもので、適切。

5 ま と め

共通テストの全科目の中で、「リーディング」は最も多くの受験者が受験する科目であり、また、センター試験から共通テストに替わるに当たり、最も大きく変更された科目であると言えるだろう。あくまで大学教育を受けるのに必要とされる基礎力と高等学校段階における英語学習の達成度を判定することを狙いとしており、海外留学（TOEFL, IELTS）あるいは国際ビジネス（TOEIC）を念頭に置いた国際標準の試験とは目的が異なるが、CEFRを参考に、CEFRのA1からB1レベルに相当する問題ということが、作成方針に掲げられている。共通テストの問題は試験日の翌日に新聞等で全て公開され、教育関係者のみならず一般国民の目に広く触れることも特徴的である。したがって、本試験は競争的試験として他に類を見ない特殊性・公開性の下に行われているものと言えよう。本試験の以上のような特性から、試験の内容・形式に関しては、教育の現場に及ぼす影響を十分に考慮し慎重な配慮が必要である。

これまでのセンター試験との違いは、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題がなくなり、全てが英語の設問による現実で目にするだろう情報に近い形での文章と問題設定である。様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問う問題となっており、総語数は、センター試験と比較し25%以上増えている。授業内での活動を意識した設定で、プレゼンテーション、スライド作成、ポスター発表、問題解決など、ただ単に読んで内容を理解するだけにとどまらず、発展的に情報を発信したり、誰かに情報を伝えたり、表現するといった様々な設定の下に設問が作られている。答えは本文に直接的には書かれておらず、内容全体を理解して、思考しないと解答できない問題、事実か意見を整理する問題、また読んだ上でその後どうするか、という将来の行動について考えさせる問題もあった。より現実に近い設定を与えることで、読む技能を試すだけではなく、発展的に思考して判断する力を問うものであった点は大きな変化である。日々の授業において、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることを意識して言語活動を行う必要がある。また、ポスターの作り方、プレゼンテーションの仕方、スライドの構成など、実際に社会に出た時にも役に立つ内容を授業でも行うことで、授業での活動の幅が広がることが期待される。なお、時代に合った内容を取り入れることで、社会の問題や変化に対応していく必要性を感じる設問があり、大いに評価に値する。多様な人々の存在する現在の社会において、他を尊重し協働的に活動をすることが明示される内容の出題により、今後授業で取り扱う内容に大きく影響を与えると考えられる。

全体において、新学習指導要領を見据えた新しい方向性を示すテストとなった。引き続き、積極的に英語を使う態度を養い、情報や考えを適切に理解した上で伝える能力を高めるための英語教育が行うことができるよう、現実に近い言語使用の状況設定と変化の激しい現在の世界と社会について考えるきっかけとなる内容での問題作成を要望する。

出題内容と設問数，配点一覧（*は，全部正解の場合のみ点を与える。）

出題内容				設問数		配点			難易度
大問	中間	解答番号	出題内容			1問当たりの配点	配点		
第1問	A	1-2	意図の読み取り	2	5	2	4	10	☆
	B	3-5	情報の読み取り	3		2	6		☆
第2問	A	6-10	要点の把握	5	10	2	10	20	☆☆
	B	11-15	情報の整理	5		2	10		☆☆
第3問	A	16-17	図表と説明文の理解	2	5	3	6	15	☆☆☆
	B	18-21	時系列での内容理解	1		3	3		☆☆
		22-23	課題の共有と理解	2		3	6		☆☆
第4問		24-25	図表と説明文の理解	2	6	2	4	16	☆☆
		26-29	内容理解と情報の整理	4		3	12		☆☆
第5問		30-31	物語のタイトル	2	5	3	6	15	☆☆
		32-35	物語の展開把握	1		3*	3		☆☆
		36-37	物語の要点把握	1		3*	3		☆☆☆
		38	物語の全体理解	1		3	3		☆☆
第6問	A	39-42	内容の論理的考察	4	8	3	12	24	☆☆
	B	43-44	情報の要約	2		3	6		☆☆☆
		45-46	正確な内容理解	1		3*	3		☆☆☆
		47	著者の意図の読み取り	1		3	3		☆☆
合 計				39			100		
平均点							58.80		

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国英語教育研究団体連合会

（代表者 鈴木 真人 会員数 約60,000人）

T E L 03-3267-8583

1 前 文

本稿では、2021年度（令和3年度）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）(1)「英語（リーディング）」問題の検討を行う。

昨年度までの大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）「英語（筆記）」問題は共通テスト「英語（リーディング）」問題へ移行し、問題の形式上大きな変更があった。移行に伴い、今回の共通テストでは、従来の発音問題や語順整序等の問題がなくなり英語リーディングの力を測る試験に変わった。コミュニケーション重視の観点から英文の内容や場面設定に改善が進められており、新しい高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえた設定となっている。

昨年度と比較して出題された小問の数は減少したものの英語の総語数は1,000語以上を超える増加となった。このため、受験者にとってはこれまで以上に速読力が求められ、試行調査（プレテスト）にはなかった新傾向の問題も登場し、最後まで解き終えることができなかった学生が増加したことが予想される。一律な英文の読み方をするのではなく、素材となる英文の種類や目的に応じて様々な読み方をするのが要求され、設問の趣旨に合った読み方をしなければ時間が不足する。速読と精読のバランスや効果測定の観点、特に思考力を測定する観点からするとこれ以上語数を増やすことは有効ではないと考える。情報量が増え、問題も複雑になり、短い時間の中で注意力や解答方法への慣れを測定するような試験に陥るのではなく、じっくりと考える時間を設定して思考力を十分に測るような試験問題に改善することが求められるのではないかと考える。しかし、一方で中間集計の結果、平均点が100点満点中ほぼ60点となり、ある意味、理想的な結果となっている。今後大問と小問ごとの正答率や弁別率、得点分布など更に詳しい分析結果が待たれるところである。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

第1問 情報とその意図の読み取りに関する設問である。問題数は5問で、10点の配点となった。

日常生活に関連した身近なものから自分が必要とする情報を読み取り、その情報を基に解答を推測する力が求められる問題である。

A スマートフォンのメッセージのやり取りを通して、画面上のメッセージの内容について問う問題とメッセージに続く応答を推測させる問題である。後者についてはリスニングの問題で短い対話に続く適切な応答を選択させる問題に類似しており、短い英文のやり取りから必要な情報を読み取り、適切な応答メッセージを返信する設定であり、思考力を測定する問題として優れた問題であると判断する。

B ウェブサイトにある案内文から必要な情報を読み取り解答する問題で、昨年まで実施されていたセンター試験の第4問Bに類似している。過去の問題は、設問が先に設定されていたので、実際の場面からすれば、やや違和感があると捉えられたこともあったが、共通テストでは設問が問題文の後に設定された形式に変化してそのようなこともなくなった。過去に出題されたこの形式の問題には、一見して文字が小さく行間も狭く複雑で分かりにくいものがあったが、その後改善が進み、文字の大きさや行間の幅などが改められ、一目でどこにどの

ような情報があるのかがすぐに分かるようになり、取り組みやすい問題となった。必要以上に情報を満載して、単に注意力を試すような問題にすることは避けるべきである。

第2問 試行調査問題のねらいとして「友人、家族、学校生活などの身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、イラストや写真などを参考にしながら、概要や要点を捉えたり、推測したり、情報を事実と意見に整理することができる。」点が挙げられているが、情報を「事実」と「意見」に整理する問題は新傾向の問題である。今回の問題の選択肢の構成を見ると、例えば、Aの問4は「意見」である③を選ばせる問題であるが、①と②には「事実」が述べられており、④には意見でも事実でもない本文と異なる内容が述べられている。つまり、受験者は事実と意見、そして、さらにその他の情報の3つに整理する必要があり、従来の問題と比較して複雑で時間がかかる問題である点を指摘しておきたい。

A 複数の情報を読み取り総合的に判断して正答を導き出す問題である。この問いではデータとコメントと評価のそれぞれ関連性がある3つの情報を正確に読み取り、ねらいの違う5つの問題に答えることが要求されており、受験者にとっては細心の注意を必要とする問題である。しかし、一方で問1は一見すれば分かるような単純な問題であり、小問ごとの難易度の差が大きいという印象を受けた。また、問3における“one fact”は何を意味しているのか、受験者にとって判断が難しかったことが予想される。問題の選択肢からすると3人の審査員に共通するコメントを選択することが求められていることが分かるが、はたして受験者はそれを理解できたのであろうか。②は1人の審査員の「意見」であり不正解、①は3人の審査員の共通する「意見」が「事実」となり正解なのであろうか。試行調査問題を解いたことがある受験者にとってはある程度の予測がついたであろうが、全くの初見では混乱を招く問題である。

B オンラインフォーラムのディスカッションを読み、その内容や「事実」に関する問いに答える問題である。この問いにある「事実」は問題Aと比較して何を指しているのかは明確であり解く上で問題となるようなことはない。問5はいわゆる思考力を測る問題であり、共通テストの特徴のひとつと言える。

第3問 平易な英語で書かれたウェブサイトのQ&Aや学校のニュースレターのメッセージを読み、書かれている内容の概要に関する問いに答える問題である。

A 平易な英語であることに間違いはないが、計算を伴う問題もあり受験者にとっては注意力を要する問題である。ホテルまでのアクセス方法が図表に分かりやすくまとめられており、出題上の工夫がうかがえるが、ウェブサイトの質問文の冒頭にQuestionと表記されていればもっと分かりやすくなったのではないと思われる。また、本文は短い英文なので問いの数も少なく設定されたことは分かるが、わずか2問しかなかったことには残念な印象を受ける。

B 試行調査問題の小問1の概要に「雑誌の記事を読んで、概要（登場人物の気持ちの変化）を把握する。」とあり、「気持ちの変化」に関する問題の選択肢が6つもあったが、今回の試験では本文のメッセージに出てくる事実を時系列に並べる問いになり、取り組みやすい問題となった。問3は思考力を測る問題であり、今後このような問いが増えることが予想される。

第4問 試行調査問題のねらいには「生徒の読書習慣について書かれた記事の読み取りを通じて、記事やグラフから、書き手の意図を把握する力や必要な情報を得る力を問う。」とあり、記事の数は2つで1つの記事にグラフが1つ添付されていた。今回の試験では2つのemailと時刻表とグラフの合計4つの情報が複雑に絡み合う問題となり、受験者にとっては注意力を要する問題となった。実用的な英文を読み、書き手の意図を把握する力や必要な情報を得る力を問う問題であることには間違いはないが、情報源が多すぎる印象を受けた。しかし、問いは短く明解であ

り選択肢も分かりやすいので情報を正確にたどっていけば正解に到達できる問題である。また、問2は並べ替えるものが最初にA～Dに明示されていて、並べ替えの組合せの選択肢が4つに限定されているので問題を解く時間が短縮できる。D: The schoolは全ての選択肢の最初にあるので、実質的にはABCの並べ替えになっている点を指摘しておきたい。

第5問 試行調査問題のねらいには「ポスタープレゼンテーションのための準備をする場面で、アメリカにおけるジャーナリズムに変革を起こした人物に関する物語の読み取りを通じて、物語の概要を把握する力を問う。」とあり、小問が4つあった。今回の試験ではプレゼンテーションコンテストに取り上げるテーマとして牛とその飼い主を中心にした物語の概要を把握するための小問が5つ設定された。試行調査問題の問2と問4の問題文には、“Choose the best statement(s) to complete the poster. (You may choose more than one option.)”とあり、選択肢が6つもあったが、今回の試験では改善され、選択肢を幾つ選択してもよいという問題がなくなった。受験者にとっては安心して問題を解くができるようになり、時間を節約することもできたのではないかと思われる。

第6問 試行調査問題の主に問いたい資質・能力の思考力・判断力・表現力に「身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する記事やレポート、資料などを読んで概要や要点を把握したり、情報を整理したりすることができる。また、文章の論理展開を把握したり、要約することができる。」とあり、問題Aではアイスホッケーの安全性に関する記事を読み、その内容をポスターにまとめる問題が出題され、問題Bでは様々な種類の甘味料に関する英文を読み、その内容を問う問題が出題された。

A 本文中に語彙レベルが高い語、例えば、“concussion”や“spotter”などが見受けられるが、それぞれの語に対して本文中に前者は“A concussion is an injury to the brain that affects the way it functions;”と定義があり、後者は“two concussion spotters, who had no medical training, monitored the game in the arena.”と説明があり、特に問題となる点はなかった。また、ポスターも一見して分かりやすく、空所に入る適切なものを一つずつ選択する形式も選択肢が短く解きやすい問題である。本文の次の図表の冒頭に、他の問題と同じく「ポスター」であることを明記すれば他の問題との統一感がでて更によいのではないかという印象を受けた。一方、アイスホッケーの安全性というテーマであるが、アイスホッケーというスポーツ自体が「身近な話題やなじみのある社会的な話題」であるのか、やや疑問に思うところがある。このスポーツの激しさや危険性は実際の映像を見れば一目瞭然であるが、果たしてどれくらいの受験者がこのスポーツを観戦した経験があるのだろうか。観戦したことがない受験者にとって、本文からこのスポーツのイメージや“quiet room”などを的確に捉えることは難しかったのではないかと思われる。

B 本文中に高いレベルの語彙が散見されるが、問題Aと同様にその定義が本文中に書かれていたり、分類上の具体例が複数示されていることから、その語の具体的な意味が分からなくても受験者は英文を読み取ることができたと予想される。しかし、本文中の“a whole food”という表現についてはもう少し説明が必要であったのではないかと思われる。また、辞書の見出し語には一語で“wholefood”とあり、その定義がある辞書には“food that is considered healthy because it only contains natural things rather than anything artificial”と記載されている。バナナが例として挙げられているが、受験者にとって理解するのが難しかったのではないかと思われる。問2は表にある(A)～(D)の並び方が縦方向であるのに対して選択肢は横方向で2行に並んでおり、問題を解く上で分かりにくいという印象を受けた。選択肢も表にある並び方に合わせて表記していただくことをお願いしたい。問3の問題文であるが、“Choose two options.”

はカッコの外に出し, “Choose two options. (The order does not matter.)”として他の問題との統一感を持たせるべきだと考える。また, 問4の正解は④であるが, 選択肢にある“make sense”の意味が受験者にとってはやや難しかったことが予想される点を指摘しておきたい。

3 ま と め

本稿では2021年度(令和3年度)第1回共通テスト「英語(リーディング)」問題について検討してきた。前述にもあるとおり, センター試験と比較すると大問構成は6問で変化はなかったが, 英語の総語数が大幅に増加し, 複数の英文や図表で構成される問題が増え, これまで以上に複雑な問題を解く英語リーディングの問題に大きく変化した。リーディングの問題であるから英文法や作文, 発音に関する問題がなくなったことに問題点はないが, 共通テストでは英語の4技能のうち主に2つの技能(リーディング, リスニング)を計測することにとどまることになる。新型コロナウイルスの影響を受けて個別試験を実施しない大学では, 主に共通テストを利用して合否を判定することになったが, 従来のセンター試験であれば, 4技能のうち少なくとも3つの技能を測ることができたのではないと思われる。緊急事態宣言が出されている中, やむを得ない選択ではあるが, 結果として偏った技能測定を余儀なくされたことになるのではなかろうか。

以下は大胆な提案であるが, 将来は英語リーディング試験をリーディングとライティングの2つの技能を測定する試験に, 英語リスニング試験をリスニングとスピーキングを測定する試験に変更していくことを検討していただきたい。後者のスピーキングテストについては, 学校現場でタブレットを利用した試験を毎年実施しており, これまでに特に大きな問題はなかった。AI技術を利用すれば短期間で採点することも可能であろう。AIを活用した音声採点システムの開発は進んでおり, 複数のシステムを組み合わせることで偏りを排した採点が可能となるのではないだろうか。他の3つの技能の測定については, 従来の方法に従い問題の構成を変えるだけで可能になる。外部試験の利用は評価基準が複数になり, 異なる試験を同一の入学試験に利用することは公平性を担保する上で大きな問題となるが, 共通テストで評価を一本化すれば全ての問題が解決されることは間違いないと判断する。

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高等学校学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
- 「リーディング」「リスニング」とともに、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、各CEFRレベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1からB1レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 「リーディング」については、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。
- 「リスニング」については、生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について、概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。
読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、1回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及するなど、自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を1回読みにする可能性についても今後検証しつつ、当面は1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。
- グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし、各大学の入学者選抜において、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、4技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」（平成29年7月）を踏まえた各大学の判断となる。

大学入学共通テスト英語におけるイギリス英語の使用について（令和元年8月23日）

現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。

2 各問題の出題意図と解答結果

本部会では上記の方針を踏まえ、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正かつ正確に測定する問題作成に向けての検討を継続的に行ってきた。令和3年度大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）については、平成29年度試行調査（プレテスト）及び平成30年度試行調査（プレテスト）の結果も踏まえ、問題形式や内容を分析し、各大問で測るべき言語能力を検証した上で、A1レベルについても思考力を意識した問題となるよう配慮した。また、実際のコミュニケーションを重視するという観点から、問題の指示文等も英語とした。

第2問のような概要や要点を把握することに加えて、推測したり、情報を事実と意見に整理する

問題、第3問のようなイラストや写真などの視覚情報を参考にして、概要・展開を把握する問題、第4問のような複数の情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を把握する問題など、思考力、判断力・表現力等を測れるような問題作成を工夫した。また、試験全体を第1問～第6問の六つの大問で構成することを継承し、セクション数（中間）は10、総解答数47、配点2～3点という構成内容で出題した。本年度の受験者数は476,174人で、昨年度実施した大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の「英語（筆記）」受験者数518,401人より大幅に減少したが、例年同様に全科目中で最も多かった。平均点は昨年度のセンター試験の「英語（筆記）」116.31点（200点満点、得点率58.15%）とほぼ等しい58.80点（100点満点）であった。標準偏差は21.44で、受験者の得点が高い範囲で分散していた。難易度及び得点状況の観点から今回の試験も適切なレベルであったと言える。また、試験の信頼性、受験者の能力を識別する識別力も非常に高く、全体的にバランスの良い標準的な問題であった。

第1問 Aは、日常生活の中で用いられることが多い、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）での双方向型の英文から、必要とする情報を読み取る問題である。問1では、ルームメイトの依頼が何か、発話の目的を考えて答え、問2では、どのような返信をするか、場面や状況を理解し、推測して判断させている。A1レベルの易しい英文であっても、思考力を問うことを意識した問題である。Bは、ファンクラブの公式ウェブサイト上の平易な英文から、必要とする情報を読み取り、書き手の意図を把握する問題である。いずれの問いにおいても、選択肢が英文中の語から言い換えられており、単に選択肢の英語を英文の中から探すような読みでは正解にたどり着けない問題である。

第2問 Aは、3人の審査員の各バンドに対する項目別のスコア（数値）と英文コメントを参考にしながら審査をまとめる中で、平易な英文を読み、表を参考にしながら概要や要点を捉えたり、推測したり、情報を事実と意見に整理する問題である。事実と意見に関する問題が各1問、問5で、最終的な順位を推測する問題が1問出題された。Bは、オンライン掲示板における生徒代表と先生の平易な英語のやりとりを読み、概要や要点を捉えたり、推測したり、事実と意見に関する問題である。問2、問4など事実を問う問題のほか、問1では反対意見を投稿した生徒の考え、問3では、特定の考えが誰の意見であるのか、また、問5では、英文内容を踏まえた上で自分の考えをまとめるなど、思考力を問う問題が出題された。A、B共にイギリス英語を用いたが、違和感なく読めたものと思われる。また、共に十分な識別力を持った問題であった。

第3問 Aは、ホテルの情報に関するウェブサイト上の平易な英語を読み、旅程に関する視覚情報も照らし合わせながら、概要を把握する問題である。案内図に書かれた時間の情報に英文の記述内容を加え、条件をあてはめるなど、本文をしっかり読みこまなければならない。Bは、学校のニュースレターに掲載された「ボランティア募集」の平易な英文記事を読み、概要や要点を捉える問題である。問1では、出来事が起きた順番を問う、問3では、記事を読んだ後に、次に取るべき行動を問うている。A、B共にイギリス英語を用いている。また、共に得点率は高くはないが、識別力がある問題であった。

第4問 海外姉妹校からの訪問団を迎え入れる交流プログラムに関する、手伝いを依頼された生徒と教員のメールの平易な英語のやりとりを読み、メールに添付された時刻表や水族館の時間別混雑度を示す図表を参照しながら、メールのやりとりとグラフ・表を参考にしながら、自分が必要とする情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を把握する問題である。複数の情報を理解し、それらを頭の中で整理し、求められる条件に応じて正解を考えなければならない。第4問の識別力も十分に高かった。

第5問 自らを馬だと考えるアストンという雄牛についての、平易な英語で書かれた物語を読んで、

その概要を把握する問題である。場面設定は、「近所の農場から仔牛を買い取り、芸を教えた女性」に関する報道記事を読み、プレゼンテーション用のスライドにまとめる問題である。問2では登場人物を整理し、問3では、牛と飼い主に関する出来事を時系列に並べるなどが問われた。総じて、識別力も高かった。

第6問 身近な話題やなじみのある社会的な話題に関する記事やレポート、資料などの英文を読んで文章の論理展開を把握したり、概要や要点、情報を整理したり、要約する力を問う問題である。Aは、学級プロジェクトに取り組む中で、アイスホッケーを行う際の安全性の向上に関する記事を読み、ポスターを制作する場面である。ポスターに載せる項目を選ぶ中で、文章全体の論理展開を考えたり、概要を把握する力が求められる。Bは、保健の授業で栄養について勉強する中で、甘味料に関する英文を読み、その概要・要点や論理展開を把握する力や、要約する力を問う問題である。問3は、英文内容に合うものを2つ選ぶ問題で、部分的に正しい選択肢も含まれているため、深い読みが求められる。第6問の識別力も十分に高かった。

3 出題に対する反響・意見についての見解

各方面からのコメントはおおむね肯定的なものであった。特に高校教員からは、「ただ単に読んで内容を理解するだけにとどまらず、発展的に情報を発信したり、誰かに情報を伝えたり、表現する」内容である。「答えは本文に直接的には書かれておらず、内容全体を理解して、思考しないと解答できない問題」「読んだ上でその後あなたはどのようにするか、という将来の行動について考えさせる問題」「より現実に近い設定を与えることで、読む技能を試すだけでなく、発展的に思考して判断する力を問うものであった」など評価が高かった。

また、第1問Aについては、教育研究団体からは、「短い英文のやり取りから必要な情報を読み取り、適切な応答メッセージを返信する設定であり、思考力を測定する問題として優れた問題である」、同Bについては、高校教員からは「良問である。必要な情報を読み取る力と判断力が問われている」との高い評価を得ている。問題作成部会においても、この大問のみならず、A1レベルの易しい英文であっても、思考力を問う問題を出題することができたと認識している。

高校教員からは、第2問について、「今後はfactとopinionを意識させることも念頭に置いた授業展開が今以上に求められる。」、第5問について、「学校の授業でのプレゼンテーション導入のひとつのきっかけになることが期待される。」など、今後の授業への良い意味での波及効果が示唆されている。

前年度までのセンター試験と比べて、英文量が増えたことなどから、情報操作能力を測っているのではないかと指摘に対しては、設計上の違いがあることを記しておきたい。日常生活において、ペーパーバックや新聞、ウェブなどの情報を楽しんで読むとなると、一定のスピードが必要となる。本テストでは、巡航速度（スピード）に乗って英語を理解することを念頭に、実践的なコミュニケーション場面において「その場で読み取る」能力の測定をしている。

平均点は昨年度のセンター試験の「英語（筆記）」並であり、全体としてはほぼ理想的な結果になった。

なお、第6問Bの英文内容については、(“Some of the LCSs”ではなく)“Some LCSs”と書いていることから、これらが問題文中に示された甘味料を指すものではないが、現在、国が指定し、使用を認めている低カロリー甘味料(LCSs)が健康上の問題を有しているとの誤解を招く恐れがあるとの指摘があった。

関連団体の見解については、下記のウェブサイトを参照されたい。

○ 一般社団法人 日本食品添加物協会 <https://www.jafaa.or.jp/>

- 食品安全情報ネットワーク (FSIN) <https://sites.google.com/site/fsinetwork/>
- 食のコミュニケーション円卓会議 <http://food-entaku.org/>

4 ま と め

センター試験の「英語（筆記）」と同様、「英語（リーディング）」は、全科目の中で最も多くの受験者が受験する科目であり、各方面からの関心が高い。特に、共通テストにおいては、平成21年告示高等学校学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、「英語（リーディング）」は、大学教育の基礎となる知識・技能の理解を問うのみならず、思考力、判断力・表現力等を発揮して解くことを重視した問題作成を行い、センター試験から内容が大きく変わった科目の1つとされている。

内容や構成のみならず、各大問の難易度についても大きく変化した。センター試験では、幅広い熟達度を有する受験者に、ほぼ同一の難易度からなる大問を一律に課していたが、「英語（リーディング）」では、大問ごとにA 1からB 1まで難易度が設定され、平均点の分布はなだらかに大きく広がり、高い識別力があることも示された。各大問の指示文では、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況を設定し、より現実場面に即した問題となったと考える。

リーディングは、たくさんの情報をより多く頭の中に入れることではなく、それらの情報を頭の中で整理して深く理解し、必要に応じて考え、活用することである。問題作成部会では、そのような理解の下に問題作成に当たったが、教育現場に良い影響をもたらし、また、英語のコミュニケーション能力の育成に役立てることができれば幸いである。